



元高松市議 植田 まきの 市政ニュース



近日公開! <http://uetamaki.com/>

「号泣会見」で
話題になった

政 務 活 動 費

香川県議会や高松市議会ではどうなってるの?

昨年、国会・地方問わず政治家の「政治とカネ」という古くて新しい問題が相次いだ。とりわけ、地方議会の政務活動費(以下、政活費)の不正支出は、「何をやっているのか分からない」と言われる地方議会や議員のあり方が問われた象徴的な問題だ。香川県議会と高松市議会の政活費の実態を見ることで、税金から支給されている政活費の課題について皆さんと考えていきたい。

使い道は何でもあり?!

政活費は、議員報酬とは別に議員の調査・研究のために支給される補助金。月額一人当たり、香川県議会は30万円、高松市議会は10万円が税金から支出されている。全国の都道府県だと年間120億円。制度ができた当初、その使い道は政策の立案のための調査・研究に限られていた。しかし、地方議会側の要請で2012年、地方自治法が改正され、「その他の活動」にも使えるようになり、使い道があいまいになった。

税金で選挙対策??

政活費の使い道が広がったことで不適切な使い道につながりかねない例として、NHK「クローズアップ現代」(9月24日放送)でも取り上げられた香川県議会。実際に意見交換をしていなくて

も、「県政に関する意見交換会」という名目で、選挙区内の各種会合にお金を支出している議員が多数いる。忘年会や新年会にも政活費が使われるということにもなる。しかし、これらは禁止されている「寄付行為」に当たる可能性があり、税金を使つての選挙活動と見られてもおかしくない支出が目につく。

実態は第2の報酬

政活費の使い道を見ようと思つても、わざわざ情報公開請求をしなければいけないのが高松市議会。全国的には、「いつでも、どこでも、誰でも」見ることができる傾向にあり、高松市議会の情報公開は遅れている。使い道を見ると、「調査研究費」とあるが、その中身はガソリン代や携帯電話代がほとんどで、市政に活かせる調査・研究はされておらず、第2の報酬になっていると言わざるを得ない。



植田はこう考える!

金額や使途基準は、使う側の議員が決めていることから「世間の常識」から大きくかけ離れたものになっている。政活費は公金だという認識を持ち、その金額や使い道は住民参加で議論して決めていくべきだ。そうすると、「どう使ったか」ではなく、「どう生かしたか」に変わっていくのではないか。また、情報公開を進めていくために、函館市議会のように会計帳簿などをすべてWebで公開する取り組みも急がれる。

帰ってきた“まっきー通信”
パワーアップして頑張ります!

私は、2003年の統一地方選で、27歳の最年少高松市議として当選させていただき、2011年の任期まで2期8年議員として活動してきました。しかし、自分自身の力の無さを痛感し、3期目は立候補せず、議会を離れ、これまでの経験を踏まえた研究や学び直しが必要だと判断しました。そして、2年間、立命館大学公共政策大学院にて、社会人大学院生として主に地方議会の研究に勤しみ、公共政策修士の学位を取得しました。

この間、地方政治に外から関わってきましたが、とりわけ、政務活動費の不正使用問題は、全国の地方議会や議員のあり方が問われるものになりました。これは、香川県議会や高松市議会も例外ではありません。相変わらず、議会の情報公開はなされず、議員特権の上にあぐらをかいている居眠り議会のみです。私は、そのような政治の場を変えていくために、再び、地方政治の現場で力を発揮していきたいと考えています。この間学んできたことを活かし、地方政治の様々な課題について、情報公開と情報発信を活動の基本に全力で取り組む決意です。

議論なくボーナスアップ?!

国家公務員の給与改定に伴って、職員の給与について人事院勧告に準拠して改定する条例改正の議案が提出された。しかし、それと同時に議員の期末手当（ボーナス）アップの条例改正（100分の155を100分の170に改訂するもの）も提案されており、議員自らのボーナスアップについては議論なく可決された。

高松市の場合、議員の報酬は、第三者機関の「特別職報酬審議会」において審議されており、審議会は議会に対して、2008年以降6年連続して、議員報酬の減額を求めているが、議会側はずっと無視しているのが実態である。減額はせず、ボーナスアップは進んで行う市議会の判断は、「市民感覚」からずれていないだろうか。



植田はこう考える!

- ①そもそも、労使関係にない議員等の特別職は、人事院勧告に縛られるものではない。
- ②今回の条例改正も「特別職報酬審議会」にかけるべき。
- ③会津若松市議会のように、市民を巻き込んで議員報酬の額やあり方を検討する会を立ち上げて議論すべき。



新米ママ

子育て日記 ① まっきーの

私事ですが、昨年8月に女の子を出産しました。妊娠初期から出産まで入院生活を余儀なくされ、私にとっては命がけの出産になりましたが、初めての育児に日々奮闘しています。

育児は楽しいこともたくさんありますが、不安や戸惑うことも同じだけあります。そこで、先日、

共通番号（マイナンバー）制度を考える

国の情報は **秘密**

個人の情報は **丸裸**

なぜ、マイナンバーが必要?

国民一人一人に12桁の個人番号を割り振り、現在は別々に管理されている「住民票」や「所得」「年金」などの情報を一元化することで、行政手続きの簡素化や年金の適正な給付などを図るとされている。今年10月に個人番号の通知、2016年1月には運用開始が予定されている。

口座情報も管理される?

さらに、政府は金融機関に対して、マイナンバーを活用して預金残高などの口座情報を管理するシステム整備などを求めていく方針だ。法律に利用範囲の拡大が明記されていることから、利用範囲は限りなく拡大される恐れがある。

住基ネットと同じ! 税金のムダ使いとも

利便性のメリットを挙げながらも、初期費用や運用費用などのコストが明らかにされていない。植田は住基ネット導入時、問題点を指摘したが、多額の税金をかけても利便性は改善されなかった。今後の動向を注視する必要がある。

地域子育て支援センターが主催する、初めて赤ちゃんを育てている母親のための講座に娘と共に参加しました。赤ちゃんは泣くのが仕事で、泣いて感情を表現していると頭で分かっているけど、実際の育児の場で、どんなことをしても泣き止まない不安になってしまいます。この講座の4回のプログラムでは、赤ちゃんがどんな時に泣くのか観察し、「泣き」につきあうことで「親子の絆」が深まることを学びました。



植田まきって どんなやつ?



- ・1975年、政治家とは無縁の家系に生まれる。高松市仏生山町で生まれ育つ。
- ・香川大学大学院修了後、スポーツ指導員や中学校講師として働く。
- ・議員インターンが転機となり、27歳の時、最年少高松市議になる。
- ・議員当選後すぐ、植田が初めて「費用弁償」（議会出席手当）受け取り拒否。議員特権をなくす活動を展開。
- ・3期目には立候補せず、2012~14年、立命館大大学院で研究に勤しむ。

おしらせ

2015年☆統一地方選 「地方から政治を変える!」連続講座

1月18日(日)13:30~

@高松市生涯学習センター まなびCAN

第2回「ネット選挙で政治に参加!」

講師:井奥 まさきさん(高砂市議会議員)

2013年夏、遂に解禁となった「ネット選挙」。ホームページやブログ、SNS等インターネットによる選挙活動とは、具体的にどのようなものなのか?そして、この新しい選挙の形は政治をどのように変えていくのか?候補者だけでなく、選挙に関わるすべての人と考えます。

資料代 500円

主催 みどりの政策セミナー (植田 090-3788-4746)

※ 手配りで配布させていただいておりますので、お手元にタイムリーにお届けできない場合があります。ご了承ください。